

第1期

運用報告書(全体版)

日系外債オープン (為替ヘッジなし)

【2019年10月15日決算】

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「日系外債オープン(為替ヘッジなし)」は、2019年10月15日に第1期決算を迎えましたので、設定以来の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/債券	
信託期間	2019年4月1日から2029年4月13日までです。	
運用方針	日系外債マザーファンドⅡ(以下、「マザーファンド」といいます。)を通じて、日本の企業およびその子会社等または政府系機関・地方自治体等の発行する外貨建債券に投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	日系外債マザーファンドⅡ	取得時において投資適格の信用格付を取得している外貨建債券を主要投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には制限を設けません。
	日系外債マザーファンドⅡ	外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎年4月15日および10月15日(それぞれ休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。 分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPY		債組入比率	債券先物比率	純資産総額
	(分配落)	税込み分配金	期騰落率	(参考指数)	期騰落率			
(設定日)	円	円	%	ポイント	%	%	%	百万円
2019年4月1日	10,000	—	—	265.0376	—	—	—	10
1期(2019年10月15日)	10,138	110	2.5	269.1571	1.6	97.8	—	42

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は当初設定元本。

(注) FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYは当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。

FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYは当該日前営業日の指数値です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 債券先物比率＝買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPY		債組入比率	債券先物比率
	騰落率	騰落率	(参考指数)	騰落率		
(設定日)	円	%	ポイント	%	%	%
2019年4月1日	10,000	—	265.0376	—	—	—
4月末	10,066	0.7	266.6714	0.6	90.1	—
5月末	9,983	△0.2	265.9860	0.4	92.3	—
6月末	10,019	0.2	265.0151	△0.0	91.7	—
7月末	10,094	0.9	266.8004	0.7	93.5	—
8月末	10,150	1.5	265.9763	0.4	96.9	—
9月末	10,193	1.9	268.1715	1.2	94.3	—
(期末) 2019年10月15日	10,248	2.5	269.1571	1.6	97.8	—

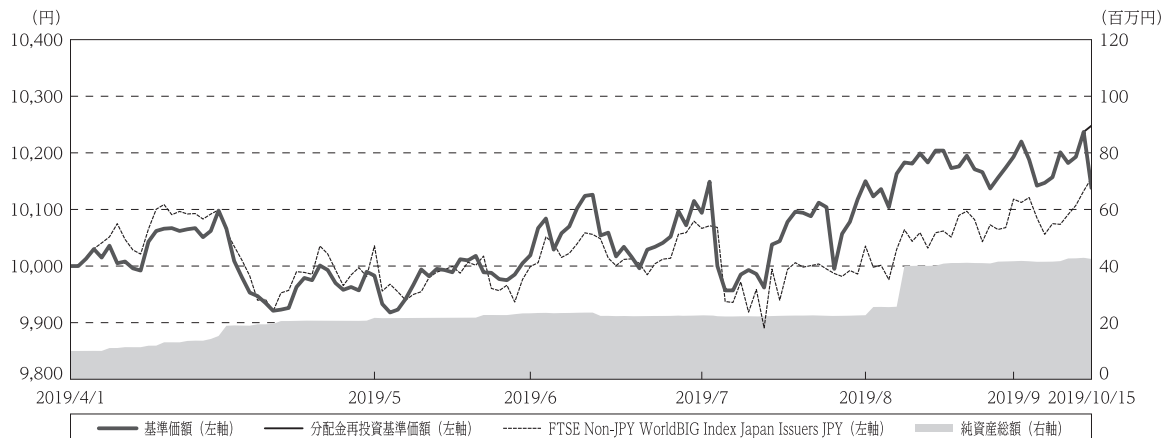
(注) 期末基準価額は1万口当たり分配金（税引前）込み、騰落率は設定日比。

FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2019年4月1日～2019年10月15日）



設定日：10,000円

期 末：10,138円（既払分配金（税引前）：110円）

騰落率： 2.5%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYです。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、設定日（2019年4月1日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。（以下同じ。）

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「日系外債マザーファンドⅡ」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・保有債券からの利息収入がプラスに寄与しました。
- ・保有債券の利回り低下による債券価格の上昇がプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・米ドル、ユーロ、イギリスポンドの対円での下落がマイナスに作用しました。

投資環境

（2019年4月1日～2019年10月15日）

欧米主要国の債券市場は、期を通じて利回りが大幅に低下（債券価格が大幅に上昇）しました。米国と中国が互いの輸入品に対する関税率を引き上げるなど、経済大国である両国間の対立が深刻化したことから、世界的な景気の停滞が長期化するとの見方が強まりました。また、米連邦準備制度理事会（FRB）が利下げに動くとともに保有資産の縮小を停止したことなども、利回りの低下を促しました。

スプレッド（社債と国債の利回り格差）については、期を通じて全般に縮小しました。米国をはじめ各国の中央銀行がハト派姿勢（金融緩和に積極的な姿勢）を強めたことから、世界的な低金利環境の長期化観測が高まり、投資家の利回り選好の動きが優勢となりました。ただ、世界的な景気の停滞を警戒し、各国の株価が軟調となる場面では、社債市場でもリスク回避による一時的なスプレッドの拡大が見られました。

為替市場については、米ドルやユーロなどの主要通貨が対円で下落しました。海外の金利低下や世界的な景気減速懸念を背景に、主要通貨の対円で売りが優勢となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2019年4月1日～2019年10月15日）

「日系外債マザーファンドⅡ」の受益証券の組入比率を高位に保ちました。

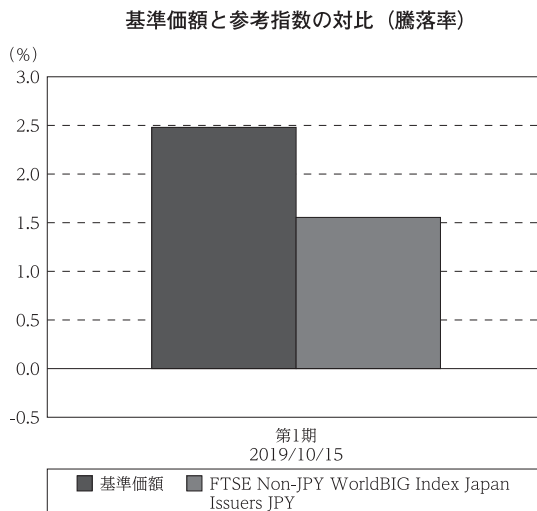
実質組入外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り為替ヘッジは行いませんでした。

「日系外債マザーファンドⅡ」においては、日本の企業およびその子会社等が発行する外貨建債券に投資を行い、同債券の組入比率は概ね高位を保ちました。銘柄の選定にあたっては、流動性、信用リスクに留意しつつ、利回り、業績、財務面等での魅力が高いと判断される債券に着目しました。また、当期においては、ポートフォリオの利回り水準を高めに維持し、利息収入の確保に努めました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2019年4月1日～2019年10月15日）

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数としているFTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYの騰落率を0.9%上回りました。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

（注）参考指数は、FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYです。

分配金

（2019年4月1日～2019年10月15日）

当ファンドの分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。当期につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、1万口当たり110円（税引前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項 目	第 1 期
	2019年4月1日～ 2019年10月15日
当期分配金	110
（対基準価額比率）	1.073%
当期の収益	110
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	137

（注）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

欧米主要国の債券市場は、利回りが低下する展開を予想しています。世界的な景気減速を背景に、債券を買う動きが優勢となることを見込んでいます。また、FRBが金融緩和姿勢を続けると見られることなども、利回りの低下を促すと考えます。

スプレッドについては、全般に安定した動きとなることを予想しています。FRBなど主要中央銀行のハト派姿勢を受けて、世界的な低金利環境の長期化観測が高まる中、投資家の利回り選好の動きが続くと見込んでいます。

為替市場については、主要通貨が対円で概ね横這いの推移となることを予想しています。引き続き海外の金利低下が主要通貨の対円で売り材料となる一方、各国の金融緩和を背景とした堅調な株価動向が主要通貨の対円で買いを促すことも想定されるため、全般には売買交錯の中で揉み合いの展開が続くと見込んでいます。

このような状況下、当ファンドの運用においては、主要な投資対象である「日系外債マザーファンドⅡ」の受益証券の組入れを高位に維持して運用する方針です。また、実質組入外貨建資産につきましては、原則として為替ヘッジを行いません。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2019年4月1日～2019年10月15日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬	38	0.375	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(18)	(0.179)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(18)	(0.179)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.018)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.024	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(2)	(0.017)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	40	0.399	
期中の平均基準価額は、10,084円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

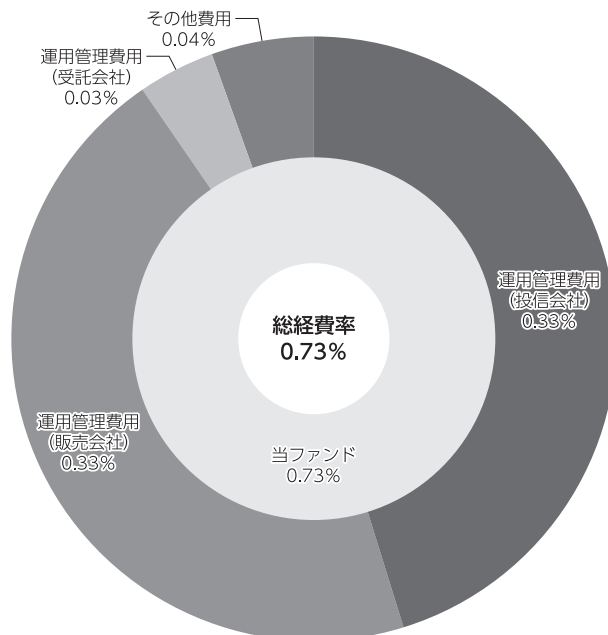
(注) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.73%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

（2019年4月1日～2019年10月15日）

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
日系外債マザーファンドⅡ		千口 39,826	千円 42,310	千口 796	千円 850

（注）単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

（2019年4月1日～2019年10月15日）

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

（2019年4月1日～2019年10月15日）

設定時 元本	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元本)	取引の理由
百万円 10	百万円 —	百万円 —	百万円 10	当初設定時における取得

（注）単位未満は切捨て。

○組入資産の明細

（2019年10月15日現在）

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
日系外債マザーファンドⅡ		千口 39,029	千円 42,233

（注）口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

（2019年10月15日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
日系外債マザーファンドⅡ	千円 42,233	% 98.1
コール・ローン等、その他	819	1.9
投資信託財産総額	43,052	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

（注）日系外債マザーファンドⅡにおいて、当期末における外貨建純資産（1,379,033千円）の投資信託財産総額（1,410,817千円）に対する比率は97.7%です。

（注）外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、邦貨換算レートは1米ドル＝108.42円、1ユーロ＝119.53円、1イギリスポンド＝136.63円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年10月15日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	43,052,185
コール・ローン等	818,318
日系外債マザーファンドⅡ（評価額）	42,233,867
(B) 負債	552,713
未払収益分配金	461,138
未払信託報酬	89,928
その他未払費用	1,647
(C) 純資産総額（A－B）	42,499,472
元本	41,921,660
次期繰越損益金	577,812
(D) 受益権総口数	41,921,660口
1万口当たり基準価額（C／D）	10,138円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1.0138円です。
 (注) 当ファンドの当初設定元本額は10,000,000円、期中追加設定元本額は33,214,143円、期中一部解約元本額は1,292,483円です。

○損益の状況（2019年4月1日～2019年10月15日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 335
受取利息	1
支払利息	△ 336
(B) 有価証券売買損益	759,664
売買益	773,867
売買損	△ 14,203
(C) 信託報酬等	△ 91,584
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	667,745
(E) 追加信託差損益金	371,205
（配当等相当額）	（△ 249）
（売買損益相当額）	（ 371,454）
(F) 計（D＋E）	1,038,950
(G) 収益分配金	△ 461,138
次期繰越損益金（F＋G）	577,812
追加信託差損益金	371,205
（配当等相当額）	（ 108,245）
（売買損益相当額）	（ 262,960）
分配準備積立金	206,607

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) 収益分配金

決算期	第1期
(a) 配当等収益（費用控除後）	523,935円
(b) 有価証券等損益額（費用控除後、繰越欠損金補填後）	143,810円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	371,205円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	－円
分配対象収益（a＋b＋c＋d）	1,038,950円
分配対象収益（1万口当たり）	247円
分配金額	461,138円
分配金額（1万口当たり）	110円

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税引前）	110円
支払開始日	2019年10月21日（月）までの間に支払いを開始します。
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本支店

<お知らせ>

該当事項はございません。

○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

（2019年10月15日現在）

<日系外債マザーファンドⅡ>

下記は、日系外債マザーファンドⅡ全体(1,293,562千口)の内容です。

外国公社債

(A)外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千米ドル	千米ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	10,510	11,487	1,245,475	89.0	—	75.2	13.7	—
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ						
日本	900	944	112,885	8.1	—	3.6	4.5	—
イギリス	千イギリスポンド	千イギリスポンド						
	100	137	18,740	1.3	—	1.3	—	—
合 計	—	—	1,377,102	98.4	—	80.1	18.2	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、当ファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

日系外債オープン（為替ヘッジなし）

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘	柄	当 期 末				償還年月日	
		利 率	額面金額	評 価 額			
				外貨建金額	邦貨換算金額		
アメリカ		%	千米ドル	千米ドル	千円		
	普通社債券 (含む投資法人債券)	BEAM SUNTORY 3.25	3.25	500	509	55,245	2023/6/15
		CENT JAPAN RAIL 4.25	4.25	800	953	103,327	2045/11/24
		DAI-ICHI LIFE 7.25	7.25	710	763	82,751	—
		FUKOKU MUTUAL 6.5	6.5	800	893	96,819	—
		MEIJI YASUDA LIF 5.2	5.2	1,000	1,107	120,096	2045/10/20
		MITSUB UFJ FIN 4.153	4.153	300	335	36,394	2039/3/7
		mitsui sumitomo 7	7.0	1,000	1,095	118,736	2072/3/15
		MIZUHO FIN GROUP 4.6	4.6	600	639	69,321	2024/3/27
		MUFG BANK LTD 4.7	4.7	600	731	79,270	2044/3/10
		NIPPON LIFE INS 4.7	4.7	200	216	23,472	2046/1/20
		NIPPON LIFE INS 5	5.0	600	635	68,953	2042/10/18
		SOFTBANK GRP COR 5.375	5.375	600	623	67,605	2022/7/30
		SOMPO JAPAN INS 5.325	5.325	1,000	1,076	116,685	2073/3/28
		SUMITOMO LIFE 6.5	6.5	800	901	97,743	2073/9/20
		SUMITOMO MITSUI 3.202	3.202	1,000	1,005	109,049	2029/9/17
小	計					1,245,475	
ユーロ				千ユーロ	千ユーロ		
日本	普通社債券 (含む投資法人債券)	ASAHI GROUP 1.151	1.151	400	416	49,783	2025/9/19
		SOFTBANK GRP COR 4	4.0	200	214	25,579	2022/7/30
		SOFTBANK GRP COR 4	4.0	100	107	12,799	2023/4/20
		SUMITOMO MITSUI 0.934	0.934	200	206	24,723	2024/10/11
小	計					112,885	
イギリス				千イギリスポンド	千イギリスポンド		
	普通社債券 (含む投資法人債券)	EAST JAPAN RAIL 4.75	4.75	100	137	18,740	2031/12/8
小	計					18,740	
合	計					1,377,102	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 変動利付債の利率は、期末における利率です。

(注) 償還年月日が「—」表示の銘柄は永久債です。

日系外債マザーファンドⅡ

マザーファンドの運用報告書につきましては、ベビーファンドの運用報告書と作成対象期間が異なる場合には、データ・コメント等に不一致が生じることがありますのでご了承ください。

日系外債マザーファンドⅡ 第1期 運用状況のご報告 決算日：2019年1月15日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	本邦の企業およびその子会社等（海外子会社等を含みます。）または政府系機関・地方自治体等の発行する、主に米ドルを中心とした先進国通貨建ての債券に投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主要投資対象	取得時において投資適格の信用格付を取得している外貨建債券を主要投資対象とします。
投 資 制 限	外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPY		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	(参考指数)	期 騰 落			
(設定日)	円	%	ポイント		%	%	百万円
2018年1月31日	10,000	—	251.9706		—	—	878
1期(2019年1月15日)	9,962	△0.4	253.2220	0.5	98.1	—	898

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は当初設定元本。

(注) FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYは当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。

FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYは当該日前営業日の指数値です。

(注) 債券先物比率＝買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPY (参考指数)		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率				
(設定日) 2018年1月31日	円 10,000	% —	ポイント 251.9706	% —	% —	% —	% —	% —
1月末	10,000	0.0	251.9706	0.0	—	—	—	—
2月末	9,771	△2.3	247.5854	△1.7	92.5	—	—	—
3月末	9,687	△3.1	245.8444	△2.4	91.1	—	—	—
4月末	9,948	△0.5	250.9923	△0.4	97.9	—	—	—
5月末	9,912	△0.9	250.2225	△0.7	91.1	—	—	—
6月末	10,078	0.8	253.6897	0.7	98.1	—	—	—
7月末	10,124	1.2	255.0530	1.2	98.1	—	—	—
8月末	10,205	2.1	257.3572	2.1	97.7	—	—	—
9月末	10,399	4.0	260.3124	3.3	98.8	—	—	—
10月末	10,293	2.9	258.8965	2.7	98.8	—	—	—
11月末	10,309	3.1	261.2046	3.7	99.0	—	—	—
12月末	10,146	1.5	257.3766	2.1	98.2	—	—	—
(期 末) 2019年1月15日	9,962	△0.4	253.2220	0.5	98.1	—	—	—

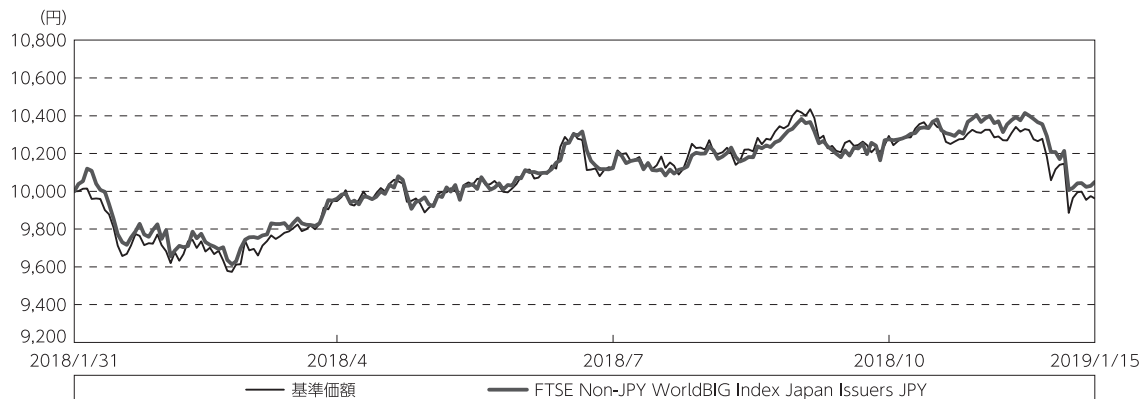
(注) 騰落率は設定日比。

FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2018年1月31日～2019年1月15日)



(注) 参考指数は、FTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYです。

(注) 参考指数は、設定日（2018年1月31日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・保有債券からの利息収入がプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・保有債券の利回り上昇による債券価格の下落がマイナスに作用しました。
- ・米ドルの対円での下落がマイナスに作用しました。

投資環境

(2018年1月31日～2019年1月15日)

米国の債券市場は、期を通じて短期ゾーンの利回りが上昇する一方、中長期ゾーンの利回りは概ね横這いとなりました。2018年10月にかけては、税制改革法の成立等を背景とした景気拡大観測の高まりや米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げを受けて、全般に利回りの上昇圧力が強まる展開となりました。しかし、その後は中国との貿易摩擦の長期化観測や減税効果の剥落懸念等を背景に、2019年以降の景気減速が意識されたことから、中長期ゾーンを中心に利回りが低下する動きとなりました。さらに期末にかけては、FRB高官のハト派(利上げに慎重)な発言が相次いだことから、利回りが急低下する場面も見られました。

スプレッド(社債と国債の利回り格差)については、期を通じて全般に拡大しました。主要先進国の株価が堅調な場面では概ね安定した推移を続けましたが、期末にかけて世界的な景気減速懸念が高まり、企業業績の先行きが不安視されたことなどから、投資家の利回り選好の動きが弱まり、スプレッドが大幅に拡大しました。

為替市場については、期を通じて米ドルが対円で小幅に下落しました。2018年3月にかけては、金融市場のボラティリティ(変動率)の上昇等を受けて、市場参加者のリスク警戒感が高まり、米ドルが対円で下落しました。その後は米国の金利先高観が高まる中で、米ドルが値を戻す展開となりましたが、期末にかけては、主要先進国の株価下落やFRBの利上げ観測の後退から、米ドルが対円で反落しました。また、ユーロやイギリスポンドは、欧州の景気減速や政治不安等を背景に、期を通じて対円で下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2018年1月31日～2019年1月15日)

ポートフォリオ構築後、組入比率は概ね高位を維持しました。ポートフォリオのデュレーションは、市場動向に応じて調整し、当期末時点では5.1年程度としました。投資する銘柄の選択にあたっては、流動性、信用リスクに留意しつつ、利回り、業績、財務面等の魅力が高いと判断される債券に着目しました。

組入外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り為替ヘッジは行いませんでした。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年1月31日～2019年1月15日)

当期間における当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数であるFTSE Non-JPY WorldBIG Index Japan Issuers JPYの騰落率を0.9%下回る結果となりました。

今後の運用方針

米国の債券市場は、利回りが低下する展開を予想しています。足元で一部の経済指標に鈍化が見られることや2019年以降に減税効果の剥落が想定されることなどから、米国経済はピークアウトした可能性が高いと考えており、今後も利回りの低下圧力が続くと思込んでいます。また、FRBがハト派な姿勢を示していることも、投資家に利上げの打ち止めを意識させて、利回りの低下を促すと見ています。

スプレッドについては、当面不安定な動きとなることを予想しています。景気減速と企業業績の鈍化が意識される中、暫くの間は投資家のリスク警戒感が続くと思込んでいます。ただ、相対的に格付けの高い本邦の企業については、全般に財務状況が健全であることから、今後のスプレッドの拡大余地は限定的と考えています。また、FRBのハト派姿勢を受けて株式等リスク資産市場が下支えされ、投資家の利回り選好の動きが回復する可能性もあると見ています。

為替市場は、米ドルが対円で上値の重い動きとなることを予想します。米国の金利先高観の後退を受けて、米ドルの買いが弱まる可能性を見込んでいます。また、ユーロやイギリスポンドも、欧州の景気減速や政治不安が継続し、対円で軟調な展開となることを想定しています。

このような状況下、当ファンドの運用においては、債券組入比率を高位に維持し、利息収入を主な収益源として、安定したパフォーマンスの実現を目指す方針です。また、ポートフォリオのデュレーションは、市場動向に応じて調整する方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2018年1月31日～2019年1月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円	%	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.032)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	その他は、金融商品取引を行う為の識別番号取得費用等
合 計	3	0.034	
期中の平均基準価額は、10,072円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年1月31日～2019年1月15日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	特殊債券	千米ドル 384	千米ドル 384
		社債券（投資法人債券を含む）	9,289	1,187 (615)
	ユーロ		千ユーロ	千ユーロ
	日本	社債券（投資法人債券を含む）	702	—
イギリス	特殊債券		千イギリスポンド	千イギリスポンド
	社債券（投資法人債券を含む）	102	396	— 392

(注) 金額は受渡代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注) 社債券（投資法人債券を含む）には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2018年1月31日～2019年1月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年1月15日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千米ドル	千米ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	6,960	7,200	780,551	86.8	—	65.5	21.3	—
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ						
日本	700	695	86,487	9.6	—	8.2	1.4	—
イギリス	千イギリスポンド	千イギリスポンド						
	100	102	14,292	1.6	—	—	—	1.6
合 計	—	—	881,331	98.1	—	73.7	22.8	1.6

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄		当 期 末					
		利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日	
				外貨建金額	邦貨換算金額		
アメリカ		%	千米ドル	千米ドル	千円		
	普通社債券 (含む投資法人債券)	BEAM SUNTORY 3.25	3.25	500	479	51,955	2023/6/15
		CENT JAPAN RAIL 4.25	4.25	600	621	67,402	2045/11/24
		DAI-ICHI LIFE 7.25	7.25	600	640	69,451	—
		FUKOKU MUTUAL 6.5	6.5	600	634	68,792	—
		MEIJI YASUDA LIF 5.2	5.2	200	203	22,070	2045/10/20
		MITSUB UFJ FIN 4.286	4.286	100	99	10,733	2038/7/26
		MITSUI SUMITOMO 7	7.0	660	706	76,572	2072/3/15
		MIZUHO FINANCIAL	3.64681	600	598	64,886	2022/2/28
		MUFG BANK LTD 4.7	4.7	600	651	70,626	2044/3/10
		NIPPON LIFE INS 5	5.0	600	613	66,540	2042/10/18
		NISSAN MOTOR ACC	3.50344	100	98	10,710	2022/9/28
		SOMPO JAPAN INS 5.325	5.325	600	615	66,673	2073/3/28
		SUMITOMO LIFE 6.5	6.5	600	644	69,843	2073/9/20
		SUMITOMO MITSUI	3.18881	600	593	64,292	2023/1/17
小	計					780,551	
ユーロ				千ユーロ	千ユーロ		
日本	普通社債券 (含む投資法人債券)	ASAHI GROUP 1.151	1.151	600	591	73,566	2025/9/19
		SOFTBANK GRP COR 4	4.0	100	103	12,921	2023/4/20
小	計					86,487	
イギリス				千イギリスポンド	千イギリスポンド		
	特殊債券 (除く金融債)	JAPAN BANK COOP 2.625	2.625	100	102	14,292	2020/12/15
小	計					14,292	
合 計	計					881,331	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 変動利付債の利率は、期末における利率です。

(注) 償還年月日が「—」表示の銘柄は永久債です。

○投資信託財産の構成

(2019年1月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 881,331	% 98.1
コール・ローン等、その他	17,480	1.9
投資信託財産総額	898,811	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

(注) 当期末における外貨建純資産(893,348千円)の投資信託財産総額(898,811千円)に対する比率は99.4%です。

(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、邦貨換算レートは1米ドル=108.40円、1ユーロ=124.39円、1イギリスポンド=139.66円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年1月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	898,811,425 円
コール・ローン等	5,647,023
公社債(評価額)	881,331,777
未収利息	11,498,807
前払費用	333,818
(B) 負債	14
未払利息	9
その他未払費用	5
(C) 純資産総額(A-B)	898,811,411
元本	902,233,416
次期繰越損益金	△ 3,422,005
(D) 受益権総口数	902,233,416口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,962円

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は3,422,005円です。

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、0.9962円です。

(注) 当ファンドの当初設定元本額は878,000,000円、期中追加設定元本額は107,254,965円、期中一部解約元本額は83,021,549円です。

(注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。

くまもと未来応援ファンド(愛称 復興投信) 902,233,416円

○損益の状況 (2018年1月31日～2019年1月15日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	39,485,952 円
受取利息	39,497,701
支払利息	△ 11,749
(B) 有価証券売買損益	△38,345,946
売買益	4,188,233
売買損	△42,534,179
(C) その他費用等	△ 328,595
(D) 当期損益金(A+B+C)	811,411
(E) 追加信託差損益金	△ 2,254,965
(F) 解約差損益金	△ 1,978,451
(G) 計(D+E+F)	△ 3,422,005
次期繰越損益金(G)	△ 3,422,005

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈お知らせ〉

該当事項はございません。